

八郎たいむず

☆学校教育目標
気づく目・感じる心を持ち
主体的に行動する
生徒の育成

「伸びる」↓「伸ばす」

例年より一か月近く早く入り、そして1週間近く早く明けた梅雨・・・その梅雨明けの空は、これからの日々には希望と期待を抱かせてくれました。今日も外は青空が広がっています。

昨年度とは違い、例年通り終業式を体育館で開くことができました。土井首中学校の全生徒、全職員が一堂に会して顔を合わせる事ができ、心からうれしく思います。

さて、この一学期を振り返ってみると、やはりコロナの影響がありました。

体育大会は二学期に延期、昨年度から繰り延べられた現三年生の修学旅行も八月に県内でのいうことになりました。教育週間も規模を縮小した関係で、今年もペーロン体験は実施できませんでした。その他、地域の行事も軒並み「なし」となりました。

しかし、マイナス面ばかりではありませんでした。プラスに働いたこともありま

す。制限のある中で、生徒一人一人、変化に対応する力が増えました。一人一台パソコンが導入され、ネット会議システムを利用しての日常的な集会、そして生徒総会。集会所が持たない中で、生徒会や各学年で生徒が主体となり課題を解決しようとする取り組み。「**主体的な生徒**」が育成されつつあります。まさしく**ピンチをチャンスに変えた**一学期でもありました。

私がいつも口にする「生きる・伸びる・関わる」ですが、「生きる」「関わる」は十分にできたと思います。それでは「**伸びる**」はどうだったでしょうか。

私の耳には様々な情報が入ってきました。「こんなことを生徒たちががんばっている」といういい情報もあります。特にあいさつに関しては来校された多くのお客様にお褒めの言葉を頂きました。

その一方で、「授業中の態度が・・・」「忘れ物が・・・」「地域の中でこんなことが・・・」と残念な情報が入ってくることもありました。そのたびに「土井中生はこんなものか。いや、こんなものではない」と思っているのは私一人ではないはず。先生方全員、保護者の皆様、そして地域の皆様も「**土井中生はもっとやれるぞ**」「**もっと立派だぞ**」と思っていることでしょう。土井中生の伸びしろはまだあります。そう信じています。

そこで、二学期に向けて、夏休み期間中に皆さんにお願いしたいことがあります。

「**落ち着こう。地に足を付けて、あせらず、あわてずじっくりと、自分のこと、自分の将来のことをしっかり考えよう**」という事です。

コロナもやがて収束していくことでしょう。いつもの日常が戻ってくると思えます。そのときまでに、**どこまで自分を「伸ばす」ことができるか。時間は確実に経過しています。一年生はもはや「新入生」ではありません。二年生はあと四か月もすれば土井首中の中心となります。**そして、三

年生は八か月後には義務教育を終えることになります。

「今」を楽しむことも必要ですが、「楽しいだけ」ではだめです。**多少きつい思いをしながらも、自分自身を成長させること、「伸ばす」ことが大切です。**将来どんな人間になりたいのか。どんな仕事に取り組んでいきたいのか。自分自身をじっくり見つけ、自分の将来のことを考えて、二学期に臨んでください。

最後にちよつとした話をします。

朝、校門であいさつ運動をしています。T君にはよく会います。「ちよつと遅かったな。あと五分早く来よう」とか「もうすぐ夏休みだな。やり残していることは今のうちにやっておこう」と声をかけるとニコッと素敵な笑顔を返してくれます。

T君と同じ笑顔で、土井中生のだけれども、持っているはずで、笑顔で夏休みを過ぎ、二学期をこころに迎える全員で迎えます。

